

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 8 日

仕事の内容	平和市民事業			
担当部署・課長名	社会教育	課	生涯学習	係 課長名 高田 匡章

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	5 - 4	-
【施策名】 地域を越えたパートナーシップの確立	総合計画書 (ページ)	113	

予算名	款 10	教育費	項 4	社会教育費	目 1	社会教育総務費	事業 7	平和事業
-----	------	-----	-----	-------	-----	---------	------	------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)
	市民	市民の人数(4月1日現在)
	→	
② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)	
市民が平和の大切さを認識している。	恒久平和の実現についての施策に対する市民の満足度	
→		
③ そのために何をしましたか。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)	
①平和月間の周知(市報掲載・HP・横断幕掲出) ②平和市民のつどいの開催 ③平和文集の発行(年度版) ④平和祈念・戦争資料展の開催 ⑤日本国憲法(冊子)の配布 ⑥平和資料の貸出 ⑦戦争体験映像記録の普及 ⑧地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業の実施 ⑨東京空襲資料展(平成28年度のみ実施)	①市報掲載回数、HP掲載回数、横断幕掲出箇所数 ②開催回数 ③発行部数 ④開催回数 ⑤配布冊数 ⑥貸出回数 ⑦戦争体験映像記録の貸出回数及び東大和市公式動画チャンネルの視聴回数 ⑧実施回数 ⑨実施回数(平成28年度のみ実施)	
→		

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	86,044	85,857	85,698	
	成果指標	②の数値	%	16.3	15.5	集計中	
	目 標	②の目標値	%	15.2	15.7	16.2	16.7 17.2
	活動指標	③の数値					
		目標値設定の考え方	市民意識調査において「恒久平和の実現について」の市民の満足度の上昇を目指す。平成33年度の目標値を17.7%としている。				
		①回・回・箇所② 1回③1,000部④1回⑤ 611冊⑥0回、⑦21 回及び564回⑧1回⑨ 1回	①1回・1回・3箇所② 1回③1,000部④1回⑤ 528冊⑥0回⑦5回及 び589回⑧1回	①1回・1回・3箇所② 1回③1,000部④1回⑤ 400冊⑥0回⑦3回及び 172回⑧1回			

3 経費	事業費(実績)		円	3,865,624	3,515,705	3,725,402	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	1,408,997	1,342,113	1,444,771	
		特定財源	円	2,456,627	2,173,592	2,280,631	
		(うち受益者負担)	円				
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	1.0	1.0	1.0	
		所要人数(再任用)	人				
職員人件費(再任用以外)		円	8,233,000	8,267,000	8,244,000		
職員人件費(再任用)	円						
事業費+人件費		円	12,098,624	11,782,705	11,969,402		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。
	東大和市平和都市宣言(平成2年10月1日宣言)により、恒久平和の実現と核兵器の廃絶を願う。 ①平成14年度から(平和月間、平和祈念・戦争資料展)、②平成15年度から(平和文集の発行)、③平成17年度から(平和市民のつどい)、④平成19年度から(憲法配布)、⑤平成22年度から(平和首長会議加盟)、⑥平成27年度(戦争体験映像記録制作)、⑦平成27年度から(地域の平和学習及び広島派遣事業)
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 戦争体験者の人口に占める割合が減少しており、戦争の悲惨さを語り継ぐことが困難となっている。

仕 事 の 内 容	平和市民事業				
担当部署・課長名	社会教育	課	生涯学習	係	課長名 高田 匡章

5 市民等の意見
この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について
(議会からの意見)
広島派遣事業については、対象を小学5・6年生までに広げたり、大変意義のある取組みである。
(地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加した小学生からの意見)
・73年間続いたこの平和が永遠に続くように、僕たちもこの戦争で起きた事実を後の世代に伝えていかなければならないのだと思いました。

6 市民協働
(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。(複数回答可)
取り組んだ 取組手法 ③、⑥、⑦
【取組手法の種類】
①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成
⑥情報提供・情報交換(広報媒体:市報等) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()
(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点

7 課題
(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容
①戦後70年以上が経過し、戦争体験者が高齢となっているため、戦争の記憶を後世に語り継ぐことが、益々困難になってきていること。平和文集の発行にあたり、戦争体験談を募集しているが、応募者が年々少なくなっている状況である。
②戦災建造物である「旧日立航空機株式会社変電所」をより多くの人に知っていただき、戦争の悲惨さを感じていただくとともに、保存に向けより多くの賛同を得ること。
(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。
平和市民のつどいや平和文集等の周知用チラシや冊子デザインを刷新し、多くの方の目に留まるようにした。
平和文集については「まちフォトコンテスト」で入賞した変電所をテーマとした写真を使用するなど、周知を図った。
(3)(2)を踏まえた今後の課題
周知に工夫を行っているところだが、戦争体験者が高齢となり、当事者から戦争の悲惨さを語り継ぐことが困難である。また、平和文集における戦争体験記の応募数も減少傾向にある。
徐々に認知度が高くなっている「旧日立航空機株式会社変電所」については、今後も平和のシンボルとして周知に努め、保存していく重要性を広めていく。

8 今後の方向性
(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」)の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など
平和と戦争について様々な場面で学習した次世代が、戦争の悲惨さや平和の尊さをさらに多くの方に伝えることのできる社会を醸成する。
戦災建造物である「旧日立航空機株式会社変電所」を保存することで、いつまでも戦争の悲惨さを忘れることなく、平和について考えさせられる平和のシンボルが形成されるため、より一層の周知をすることが望まれる。
(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等
小・中・高校との調整・連携。
種々のイベントにおいて、旧日立航空機株式会社変電所の周知を図る。
(3)改革・改善案による期待成果
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。

成果	成果を向上させる。	経費	仕事の経費は維持する。
----	-----------	----	-------------